

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 経営組織論特研 (Organization Theory Advanced Research)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式 対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
コア科目	2	1、2	経済学研究科 博士前期	前期	火6	氏名 本谷るり E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線												
授業の概要	経営学全般と経営組織論の知識を深め、理論を応用し、実社会に活用できる能力を身につけることを目指しています。企業組織に対するさまざまな側面からの理論や分析視点を獲得することに加えて、受講生各自の視点や考えを出し合い、共有し、議論を深めることによりそれらを達成します。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 経営組織論のさまざまな理論の習得																		
目標2 理論を活用し企業を分析する視点の習得																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス(講義の進め方、準備するものなどの説明をします)																		
2 経営学、経営組織論の枠組み																		
3 経営組織論の流れ(1)古典的組織論																		
4 経営組織論の流れ(2)近代的組織論																		
5 組織均衡																		
6 組織の構造(1)3つの基本形																		
7 組織の構造(2)ネットワーク、チーム																		
8 組織文化、経営理念																		
9 組織と人(1)モチベーション																		
10 組織と人(2)リーダーシップ																		
11 組織と人(3)インセンティブシステム																		
12 コンフリクト																		
13 組織学習、組織の知識																		
14 組織成長のモデル																		
15 組織と社会																		
ラ ブ ニ ン グ	A:知識の定着・確認	積極的に討論に参加するようにしてください。				工 夫	そ の 他 の											
時間外学修の内容と時間の目安	準備	あらかじめ該当する文献を読み、課題を提出してください(15h)。																
	学修	報告担当者はレジュメや配付資料の準備をしてください(1h)。																
	事後	課題を復習してください。さらに、参考文献を紹介しますので、興味があるものについてはぜひ読んでみてください(10h)。																
教科書	用いる文献については授業開始1か月前をめどに掲示します。 使用する文献によっては、講義の内容が前後することがあります。																	
参考書	講義中に適宜お知らせします。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	レジュメ作成と討論の内容	50%																
	期末レポート	50%																
成績評価	積極的に講義の議論に参加してください。 学期末に講義の内容を反映したレポートを作成してもらいます。																	
注意事項	毎回の授業でのプレゼン担当者を決め、レジュメを作成し内容について報告・説明してもらう形で進めます。担当者は授業の前半では内容を説明し、ポイントとなることをまとめてください。さらに疑問点や内容に関するコメントも記載してください。後半はそれらをもとにして受講生全員で討論を行います。																	
備考	令和2年度までに「経営組織論特研」を受講済みの方は、受講できません。																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) マーケティング論特研 (Marketing Theory Advanced Research)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式 対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
コア科目	2	1,2	経済学研究科 博士前期	後期	金6	氏名 松隈久昭 E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680										
授業の概要	マーケティング理論の理解と応用分析が中心となる。また、マーケティングリサーチ、ケース分析により、理解を深める。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	マーケティングの基礎的理論を説明できるようになること。															
目標2																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	マーケティング理論の理解(1)理論															
2	マーケティング理論の理解(2)事例研究															
3	製品政策(1)理論															
4	製品政策(2)事例研究															
5	価格設定(1)理論															
6	価格設定(2)事例研究															
7	流通政策(1)理論															
8	流通政策(2)事例研究															
9	プロモーション(1)理論															
10	プロモーション(2)事例研究															
11	消費者行動(1)理論															
12	消費者行動(2)事例研究															
13	マーケティングリサーチ(1)理論															
14	マーケティングリサーチ(2)事例研究															
15	事例研究とまとめ															
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	受講生はレポートを作成し、教員はそのサポートを行う。				工 夫 そ の 他 の	マーケティングに関する時事問題については、資料を配付する。									
準備 学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。(30h)															
事後 学修	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べること。また、それらの事例に関する現状と課題を示すこと。(20h)															
教科書	初回の授業時に示します。 受講する方は、必ずテキストを入手してください。															
参考書	Malhotra, N. K., Marketing Research , Prentice Hall, 2003															
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10				
	レポート	100%														
		新型コロナウイルス対策のために、遠隔授業にする場合があります。														
注意事項	統計学を履修済みであることが望ましい。															
備考	初回のガイダンスに参加してください。 新型コロナウイルス対策のため、ZOOMでの授業(オンデマンドを含む)になる場合があります。															
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式											
KC40M212		ベンチャー・技術経営論特研(Venturing & Technology Management Advanced Research)							対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2		経済学研究科 博士前期	前期	月6	氏名 渡邊 博子 E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702														
授業の概要	本授業では、日米のベンチャー企業や技術経営を対象に、取り巻く経済・産業・社会とその構造変化を把握し、ベンチャー企業や技術経営の歴史や現状、成長過程とその課題、ベンチャー企業を創出・育成したり、技術経営を深化させたりするための手段や方法、ベンチャー企業や技術経営から見た今後の社会経済システムなどについて考察していきます。また、企業の成長や経営の取り組みにかかわるイノベーションについても、その歴史や本質の理解を深めていきます。さらに、多くの事例研究を行うことでベンチャー企業や技術経営の実態および課題を明確にしていきます。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	ベンチャー企業や技術経営を取り巻く経済・産業・社会の構造やその変化を認識する。																			
目標2	企業や技術経営、イノベーションに関する知識を修得する。																			
目標3	ベンチャー企業や技術経営を創出・発展させていくための手法について具体的に考える。																			
目標4	場合によっては、自ら起業するための準備ができるような力を養う。																			
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 ガイダンス(ベンチャー企業や技術経営を取り巻く経済・産業・社会)																				
2 イノベーションの概念と重要性																				
3 ベンチャー企業や技術経営の定義と歴史、アントレプレナーシップ、起業家像																				
4 日本およびアメリカにおけるベンチャー企業および技術経営																				
5 ベンチャー企業および技術経営のビジネス的側面(1)創出期																				
6 ベンチャー企業および技術経営のビジネス的側面(2)発展期																				
7 ベンチャー企業および技術経営の現状と課題																				
8 ベンチャー企業および技術経営の促進方法(1)創出・育成																				
9 ベンチャー企業および技術経営の促進方法(2)支援																				
10 ベンチャー企業や技術経営における人材																				
11 ベンチャー企業や技術経営の新たな側面																				
12 日本のベンチャー企業・事例研究(1)モノづくり分野																				
13 日本のベンチャー企業・事例研究(2)サービス提供分野																				
14 アメリカのベンチャー企業・事例研究																				
15 講義のまとめとベンチャー企業の今後の姿																				
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	ディスカッション、グループワーク、個人ワーク、プレゼンテーション、レポート、事例研究など。					工 夫 そ の 他 の	各テーマに関連した映像や新聞、雑誌、記事などの利用。												
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修(30時間)																		
	事後学修	各テーマに関する学習の振り返りと理解(15時間)																		
教科書	受講生との相談のうえ決定しますが、関連資料等は毎回配布します。																			
参考書	加藤厚海・福嶋路・宇田忠司『中小企業・スタートアップを読み解くー 伝統と革新、地域と世界 -』有斐閣、2023年。 鈴木克也編集『ソーシャルベンチャーの理論と実践 - 理論と実践シリーズ -』エコハ出版、2011年。 金井一頼・角田隆太郎編『ベンチャー企業経営論』有斐閣、2002年。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	授業における報告および議論の内容や取り組み姿勢	50%																		
	期末レポートなどの内容	50%																		
	以上のことをもとに総合的に評価します。																			
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。																			
備考	具体的な内容や進め方などについては、受講生の人数や要望に応じて柔軟に決めていきたいと思っています。																			
リンク	URL																			

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	シンクタンク研究員等
実務経験を いかした教 育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
KC40M206	経営戦略論特研 (Management Strategies Advanced Research 1)						対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1、2	経済学研究科 博士前期	後期	木7	氏名 仲本 大輔 E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714						
授業の概要	現代企業の経営に関わる諸問題を考察していくうえで、企業が進むべき基本的方向を定める経営戦略を知り、分析していくことは必要不可欠です。本講義では、文献輪読を通じて経営戦略の概念、経営戦略の見方などを習得することをねらいとします。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	習得した経営戦略論の分析枠組みにより、現実に行き起きている企業経営に関わる問題を考察できるようになることです。											
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	経営戦略の概念											
3	ポーターの論文											
4	ポーターの論文											
5	ハメル&ブラハラードの論文											
6	バーニーの論文											
7	ミンツバーグの論文											
8	ブルーオーシャン戦略											
9	ブルーオーシャン戦略											
10	アーキテクチャ論											
11	アーキテクチャ論											
12	アーキテクチャ論											
13	アーキテクチャ論											
14	CSVに関する論文											
15	CSVに関する論文											
ラック ニテン イグ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	随時、具体的な企業のケースを相互に出し合い、各回で取り扱う理論からどのように分析できるのかをディスカッションします。				工 夫 そ の 他 の						
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	毎回、1本ずつ論文を読んでいます。報告者を含め、全員読んでくるようにしてください(各回2h)。										
	事後 学修	毎回、復習をしてください(各回1h)。										
教科書	DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー等から該当する論文をコピーします。また、適宜、学術雑誌等から論文をコピーします。その際には、受講者の希望を考慮します。											
参考書	適宜紹介します。											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	平常点	80%										
	期末レポート	20%										
注意事項	・報告者以外の受講者も毎週、教材を読んでください。 ・初回のガイダンス時に印刷室で論文コピーの作業をするので、コピーカードを持参してください。											
備考												
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式													
KC40M213	比較経営史特研(Business History Advanced Research)																			
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2		経済学研究科 博士前期	後期	月7	氏名 渡邊 博子 E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702														
授業の概要	本授業では、第二次世界大戦後の日本経営史を対象として、経済や産業の発展過程を踏まえたうえで、欧米諸国からの技術や経営システムの移転、日本の国際競争力向上に貢献したモノづくりやイノベーションの過程、日本企業独自の経営システム(日本的経営)の確立、グローバル化の進展による産業や企業へのインパクトやその取り組み、アジア諸国の勃興やキャッチアップによる日本企業への影響などについて、事例研究を中心に産業分析、企業比較を行っていきます。また、これまでの歴史をもとに、これからの日本企業のあり方や生き残り・発展戦略などについても検討していきます。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	戦後日本の経済や産業発展を理解したうえで、日本の経営システムや組織運営に関する知識を修得する。																			
目標2	産業分析や企業比較、事例研究などを行い、当該分野の具体的な内容を理解する。																			
目標3	歴史や変遷をもとに、これからの企業のあり方や生き残り・発展戦略について考察する力を養う。																			
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	ガイダンス																			
2	欧米諸国の経済・産業発展と企業経営(1)																			
3	欧米諸国の経済・産業発展と企業経営(2)																			
4	戦後日本の経済・産業発展と企業経営(1)																			
5	戦後日本の経済・産業発展と企業経営(2)																			
6	日本のモノづくりと企業におけるイノベーション																			
7	日本的経営の確立とその発展																			
8	グローバル化の進展と日本の産業や企業																			
9	アジア諸国の台頭と日本企業																			
10	産業分野における歴史と企業の変遷: 鉄鋼等産業																			
11	産業分野における歴史と企業の変遷: 自動車産業																			
12	産業分野における歴史と企業の変遷: 電機産業																			
13	産業分野における歴史と企業の変遷: サービス産業(1)																			
14	産業分野における歴史と企業の変遷: サービス産業(2)																			
15	講義のまとめとこれからの日本企業の生き残り・発展戦略																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	ディスカッション、グループワーク、個人ワーク、プレゼンテーション				工夫 その 他の	各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。													
	B:意見の表現・交換	、レポート、事例研究など。																		
	C:応用志向																			
	D:知識の活用・創造																			
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修(30時間)																		
	事後 学修	各テーマに関する学習の振り返りと理解(15時間)																		
教科書	受講生との相談のうえ決定しますが、関連資料等は毎回配布します。																			
参考書	授業の中で適宜紹介します。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	授業における報告および議論の内容や取り組み姿勢	50%																		
	期末レポートなどの内容	50%																		
		以上のことをもとに総合的に評価します。																		
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。																			
備考	具体的な内容や進め方などについては、受講生の人数や要望に応じて柔軟に決めていきたいと思っています。																			
リンク	URL																			

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	シンクタンク研究員等
実務経験を いかした教 育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式											
KC40M204		経営管理論特研 (Business Administration Advanced ResearchI)						対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択	2	1、2	経済学研究科 博士前期	前期	火5	氏名 藤原直樹 E-mail nfujwara@oita-u.ac.jp 内線 7675													
授業の概要	経営管理論として、人的資源管理の問題を講じてゆきます。そして、この中心的課題として、昇進(キャリア)管理、ならびに、企業内における技能向上手段をとりあげます。対象は、一見、我が国とは対照的な雇用慣行を基礎に経営が行われているアメリカと旧西ドイツです。具体的には、両国では、そもそも内部労働市場が広範に存在しているのか、その深さはどの程度までが一般的であるのか、昇進と関連した企業独自の継続訓練はいかなる形で実施されているのか等が課題です。これらにより、我が国の人的資源管理の特徴が、より明確なものにもなるでしょう。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1 内部労働市場とは何かを、経済学の観点より十分に理解すること。																			
目標2 アメリカのブルーカラーを対象として、企業内移動と技能向上手段を考察し、理解すること。																			
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 問題の所在、内部労働市場とは、キャリアとは何か																			
2 問題の所在、内部労働市場とは、キャリアとは何か																			
3 問題の所在、内部労働市場とは、キャリアとは何か																			
4 労働協約から見た内部労働市場																			
5 労働協約から見た内部労働市場																			
6 装置産業における企業内移動(1)																			
7 装置産業における企業内移動(1)																			
8 装置産業における企業内移動(2)																			
9 装置産業における企業内移動(2)																			
10 装置産業における企業内移動(2)-英語の研究論文読解																			
11 装置産業における企業内移動(2)-英語の研究論文読解																			
12 装置産業における企業内移動(2)-英語の研究論文読解																			
13 機械産業における企業内移動																			
14 機械産業における企業内移動																			
15 アメリカにおける内部労働市場の史的展開																			
ラ イ ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					個人報告と議論を行います。英文和訳も課します。					工 夫 そ の 他 の	この講義で英語の研究論文を取り上げるのは、これらを読解するための要点を理解し、習熟するという目的のためでもあります。							
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	テキストの予習(30h)																	
	事後 学修	授業内容の整理(30h)																	
教科書	小池和男『職場の労働組合と参加』 東洋経済新報社、1977年(但し、現在品切中)。これ以外に、短い英語の研究論文を使用します。また、総括の意味として、私の論文を取り上げるケースもあります。																		
参考書																			
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10							
	報告・発表の内容	50%																	
	授業中の議論の内容	50%																	
注意事項																			
備考																			
リンク	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KC40M205		経営管理論特研 (Business Administration Advanced ResearchII)						対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2		経済学研究科 博士前期	後期	火6	氏名 藤原直樹 E-mail nfujwara@oita-u.ac.jp 内線 7675												
授業の概要	経営管理論特研 で学習した、労働者のキャリア形成に関する理論的な枠組みとアメリカのブルーカラー労働者に関するキャリア形成の状況を基礎とした上で、更にキャリア形成についての深い考察を行ってゆきます。 主として、ドイツのブルーカラー労働者を対象としてキャリア形成の状況と理論的な問題点を調べてゆきますが、受講者と相談の上で、他の国(アメリカor日本)の、あるいは、ホワイトカラーの事例を取り上げる可能性もあります。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 企業内移動と技能向上手段をより深く考察し、理解すること。																		
目標2																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス																		
2 テキスト・論文の輪読																		
3 テキスト・論文の輪読																		
4 テキスト・論文の輪読																		
5 テキスト・論文の輪読																		
6 テキスト・論文の輪読																		
7 テキスト・論文の輪読																		
8 テキスト・論文の輪読																		
9 テキスト・論文の輪読																		
10 テキスト・論文の輪読																		
11 テキスト・論文の輪読																		
12 テキスト・論文の輪読																		
13 テキスト・論文の輪読																		
14 テキスト・論文の輪読																		
15 テキスト・論文の輪読																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	個人報告と議論を行います。					工夫	その他の										
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	テキスト・論文の予習(30h)																
	事後学修	授業内容の整理(30h)																
教科書	ドイツのブルーカラーの場合は、私の諸論文(10編程)を使用します。 アメリカのホワイトカラーの場合は、小池和夫『アメリカのホワイトカラー』東洋経済新報社 1993年(但し、現在品切れ中)、を使用します。																	
参考書																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	報告・発表の内容	50%																
	授業中の議論の内容	50%																
注意事項	既に経営管理論特研 を受講した方が、参加してください。																	
備考																		
リンク	URL																	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KC40M210	企業論特研I(Company and Business Advanced Research I)						対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2		経済学研究科	前期	木6	氏名 河野憲嗣 E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp 内線 7679											
授業の概要	学術研究の対象として語られる企業に着目して、様々な視点から理解を深めます。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	企業に関する学術的な考察や研究方法への理解を通じて、修士論文のテーマや問題意識を具体的に説明できる。																
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス(受講者の研究計画などのヒアリング、授業の進め方の説明等)																
2	企業に関する理論(講義、討論)																
3	現代社会における企業の意義と課題(講義、討論)																
4	受講者による研究報告、及び報告に基づいた解説、討論																
5	受講者による研究報告、及び報告に基づいた解説、討論																
6	受講者による研究報告、及び報告に基づいた解説、討論																
7	企業の実際(大企業の特性に関する講義、討論、現地調査)																
8	企業の実際(中小企業の特性に関する講義、討論、現地調査)																
9	企業の実際(スモールビジネスの特性に関する講義、討論、現地調査)																
10	ケーススタディ(大企業の事例を扱った講義、報告、討論)																
11	ケーススタディ(中小企業の事例を扱った講義、報告、討論)																
12	ケーススタディ(スモールビジネスの事例を扱った講義、報告、討論)																
13	受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理																
14	受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理																
15	受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理 受講者数や進捗に応じて、内容を調整します。																
ラ イ ク ニ テ ン シ イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	論文や報告資料など成果物をアウトプットすることにこだわります。 他学生や様々な環境の中で学ぶ機会を設けます。				工 夫 そ の 他 の	毎回の授業でコメントシートの提出を求めます。 コメントシートを通じて、授業の中で対応できなかった質問や感想に答えます。										
時間外学修の内容と時間の目安	準備 学修	指定した資料の読了など(事前30時間)															
	事後 学修	講義内で得た気づきなどの文書化、関心を持ったテーマに関する資料の読了など(事後15時間)															
教科書	教科書は使用しません。 必要に応じてスライドやプリントを使用します。																
参考書	三戸・池内・勝部著『企業論』有斐閣アルマ 1999年 ミクルスウェイト・ワールドリッジ著『株式会社』ランダムハウス講談社 2006年 その他、テーマに応じて適宜紹介します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	レポート	50%															
	平常点	50%															
注意事項	ゲストスピーカーを招いたり、企業等へ現地調査に赴くことがあります。																
備考	受講希望者は初回講義日前日までに必ず担当教員までメールで連絡してください。																
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当
実務経験を いかした教 育内容	ビジネスの実体と金融の側面から、学术研究の対象としての企業について解説する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KC40M211		企業論特研II(Company and Business Advanced Research II)					対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2		経済	後期	金3	氏名 河野憲嗣 E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp 内線 7679											
授業の概要	学術研究の対象として語られる企業について、様々な視点から理解を深めます。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 企業に関する学術的な考察や研究方法について、説明できる																	
目標2 経済社会への貢献との関連において、修士論文のテーマの位置づけを特定できる																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 ガイダンス(受講者の研究計画などのヒアリング、授業の進め方の説明等)																	
2 企業に関する理論(講義、討論)																	
3 現代社会における企業の意義と課題(講義、討論)																	
4 受講者による研究報告、及び報告に基づいた解説、討論1																	
5 受講者による研究報告、及び報告に基づいた解説、討論2																	
6 受講者による研究報告、及び報告に基づいた解説、討論3																	
7 企業の実際1(成長を前提とした経営に関する講義、報告、討論、現地調査)																	
8 企業の実際2(脱成長を目指す経営に関する講義、報告、討論、現地調査)																	
9 企業の実際3(持続可能性を目指す経営に関する講義、報告、討論、現地調査)																	
10 ケーススタディ1(日本企業を題材とした講義、報告、討論)																	
11 ケーススタディ2(米国企業を題材とした講義、報告、討論)																	
12 ケーススタディ3(ドイツ企業を題材とした講義、報告、討論)																	
13 受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理1																	
14 受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理2																	
15 受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理3 受講者数や進捗に応じて、内容を調整します。																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	報告資料の作成やプレゼン、レポート作成など成果物をアウトプットする機会を多く設けます。				工夫 その 他の	毎回の授業でコメントシートの提出を求めます。コメントシートを通じて、授業の中で対応できなかった質問や感想に答えます。										
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	指定した資料の読了(事前30時間)															
	事後	講義内で得た気づきの文書化、関心を持ったテーマに関する資料の読了(事後15時間)															
教科書	教科書は使用しません。必要に応じてスライドやプリントを使用します。																
参考書	菊澤研宗『業界分析 組織の経済学』中央経済社 2006年 中牧・日置・竹内編『テキスト経営人類学』東方出版 2019年																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	研究発表	50%															
	レポート	50%															
研究発表やレポートに付随する授業への貢献度についても評価の対象とします。																	
注意事項	ゲストスピーカーを招いたり、企業等へ現地調査に赴くことがあります。																
備考	受講希望者は初回講義日前日までに必ず担当教員までメールで連絡してください。																
リンク																	
	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	経営者、全国銀行協会、人事担当者
実務経験を いかした教 育内容	ビジネスの実体と金融の側面から、学術研究の対象としての企業について解説します。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
KC40M217	国際経営論特研 (International Business Studies Advanced Research)						対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1,2	経済学研究科 博士前期	後期	火7	氏名 加納 拓和 E-mail hkano@oita-u.ac.jp 内線 7709						
授業の概要	本授業のねらいは国際的な学術誌に掲載された、国際経営論に関する研究論文(英語)を渉猟することを通じて、当該領域の基本的な知識を習得することにある。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	国際経営論の基本的な知識の習得											
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	研究論文の輪読											
3	研究論文の輪読											
4	研究論文の輪読											
5	研究論文の輪読											
6	研究論文の輪読											
7	研究論文の輪読											
8	研究論文の輪読											
9	研究論文の輪読											
10	研究論文の輪読											
11	研究論文の輪読											
12	研究論文の輪読											
13	研究論文の輪読											
14	研究論文の輪読											
15	研究論文の輪読											
ラーニング	A:知識の定着・確認	研究論文の輪読					工夫	その他の				
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備	・研究論文の精読										
	学修	・報告資料の作成										
	事後	・授業内容の復習										
	学修											
教科書	輪読の対象となる研究論文は受講者と話し合って決定する。											
参考書												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	研究論文の要約・授業中の発言	100%										
注意事項	毎週、研究論文(英語)の精読及び報告の準備が必要となるため、相当の学習時間が必要となる。輪読の性質上、欠席は他の受講者に多大な迷惑が及ぶ。確実に出席できる(欠席する場合は前もって連絡できる)方の受講を望む。											
備考												
リンク												
	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	ITコンサルタント

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 経営シミュレーション特研 (Management Simulation Advanced Research)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1、2	経済学研究科 博士前期	前期	木3	氏名 松谷 葉子 E-mail matsutani@oita-u.ac.jp 内線 7694												
授業の概要	<p>実際に経営するというとはどういうことなのか。 実際に何らかのビジネスアイデアを形にし、具現化する過程で、具体的な経営シミュレーションを試みます。</p>																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 ビジネスアイデアを具体的なプランとして具現化できる																		
目標2 事例に対して、経営的観点から考察することができる																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス(講義の進め方などを解説)																		
2 情報とは何か																		
3 リソースについて考察する																		
4 ターゲットを考察する																		
5 事業領域とアイデア																		
6 マーケティングを考察する																		
7 ターゲットと価値																		
8 代替できる価値																		
9 顧客とのコミュニケーション																		
10 購買行動																		
11 事業機会																		
12 市場を考察する																		
13 「成功」の定義																		
14 ビジネスプランの策定																		
15 プレゼンテーションと評価																		
ラック ニティ ゲブ	A:知識の定着・確認		B:意見の表現・交換		C:応用志向		D:知識の活用・創造		事前準備の上、講義にのぞみ、積極的に討論に参加してください		工夫		その 他の					
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	毎回、課された課題に取り組み、レポートとして仕上げてください(10時間)																
	事後 学修	自身のレポートの見直しを行い、討論結果を反映させたものを改めて仕上げてください(15時間)																
教科書	特になし																	
参考書	講義中に適宜お知らせします																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10						
	講義中の議論内容や取り組み姿勢	80%																
	レポート課題	20%																
注意事項	ご自身の意見を持って討論に参加できるように、課題に取り組んでください																	
備考	具体的な内容は、要望に応じて柔軟に決めていきたいと思っています																	
リンク	URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	・ 経営コンサルタントとしての経験（人事戦略、業務改善、新規事業策定などのコンサルティング） ・ 経営者として事業経営の経験
実務経験を いかした教 育内容	文献調査だけで完結しない、実践的な内容を心がけます

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 経営シミュレーション特研 (Management Simulation Advanced Research)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1, 2	経済学研究科 博士前期	後期	木6	氏名 松谷 葉子 E-mail matsutani@oita-u.ac.jp 内線 7694						
授業の概要	既存の事業について、事業構造をビジネスモデル化(単純化)し分析することで、実際の経営のシミュレーションを試みます。最終的には、独自のビジネスモデル分析フレームワークを開発していただきます。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	既存のビジネスの構造について、モデル化ができる											
目標2	ビジネスの分析ができる											
目標3	分析結果から改善案を策定できる											
目標4	ビジネスモデル分析のための独自フレームワークを策定することができる											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	ビジネスモデルの4要素											
3	ターゲットと価値											
4	事業分析1; 事業領域を特定したモデル化と分析											
5	事業分析2; 顧客価値視点からのモデル化と分析											
6	収益モデルを考察する											
7	事業分析3; 収益モデルを特定した分析											
8	事業分析4; 事業領域×収益モデル											
9	事業分析5; 顧客価値×収益モデル											
10	顧客とのコミュニケーション											
11	事業分析6; 事業領域×コミュニケーション											
12	事業分析7; 顧客価値×コミュニケーション											
13	事業分析8; 収益モデル×コミュニケーション											
14	ビジネスモデル分析フレームワークの策定											
15	プレゼンテーションとまとめ											
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	みなさんの課題を基にディスカッションを行います。 事前準備の上、講義にのぞみ、積極的に討論に参加してください。				工 夫 そ の 他 の	毎回自らの意見を持ってディスカッションに参加していただくスタイルをとります。					
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	毎回課された課題に取り組み、レポートとして仕上げてください(10時間)										
	事後学修	自身のレポートの見直しを行い、討論結果を反映させたものを改めて仕上げてください(15時間)										
教科書	特になし											
参考書	講義中に適宜お知らせします											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	講義中の議論内容や取り組み姿勢	80%										
	レポート課題	20%										
注意事項	毎回のレポート課題を提出しない場合は、失格とします。 ご自身の意見を持って討論に参加できるように、課題に取り組んでください											
備考	具体的な内容は、要望に応じて柔軟に決めていきたいと思っています											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	・ 経営コンサルタントとしての経験（人事戦略、業務改善、新規事業策定などのコンサルティング） ・ 経営者として事業経営の経験
実務経験を いかした教 育内容	文献調査だけで完結しない、実践的な内容を心がけます

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
KC20M203		企業ファイナンス論特研(Corporate Finance Advanced Research)						対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	修士1年・2年	経済学研究科 博士前期	後期		氏名 鷓崎 清貴 E-mail 内線											
授業の概要	<p>「企業ファイナンス論特研」は、企業ファイナンスの基礎を学びます。本講義では、「評価」を学びます。「評価」とは、あるプロジェクトを実行するのか、買収するのかを、経営者がいかに決定するか、ということです。この決定のためには、「資本予算」、「投資」、そして「資本構成」の主要な問題を考察する必要があります。本講義は、将来、銀行・証券会社などの金融機関または企業（財務・会計担当）に勤みたい学生や国家試験受験の学生には、有益です。</p>																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 企業ファイナンスの基礎を学ぶ																	
目標2 ExcelやRで会計数値を計算することができる																	
目標3 得られた会計数値を分析することができる																	
目標4 実際の企業に応用することができる																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 インTRODクシヨン																	
2 貨幣の時間価値																	
3 資金調達 株式と社債の評価																	
4 資本予算																	
5 債権の利回り1																	
6 債権の利回り2																	
7 不確実性とリスク																	
8 リスク回避と資産の収益性																	
9 期待収益率とリスク																	
10 ポートフォリオ理論																	
11 ポートフォリオ理論2																	
12 資本資産評価モデル(CAPM)1																	
13 資本資産評価モデル(CAPM)2																	
14 M&A																	
15 コーポレート・ガバナンス																	
ラック ニ ン イ ゲ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	日経新聞やWSJの記事に関し、ファイナンスの立場から議論を深める。 実際の会計数値を用いて、分析を行う。 実際の企業にファイナンスの理論を応用し分析する。				工 夫 そ の 他 の	ハンドアウトを毎回配布し、課題を解答する										
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修 事後 学修	日経新聞やWSJを読み、課題を発見する。 課題を解答する。															
教科書	Welch, Ivo, 2011. Corporate finance an introduction 2nd Edition (Prentice Hall) 資料は、Moodleから各自プリントして、講義に参加して下さい。 鷓崎清貴(2022)『Rによるコーポレートファイナンス入門』																
参考書	市村昭三編『財務管理論』創成社出版,1995年 坂本恒夫・文堂弘之『成長戦略のための新ビジネス・ファイナンス』中央経済社, 2007. 古川浩一・蜂谷豊彦他『基礎からのコーポレート・ファイナンス』中央経済社, 2005.																
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	授業内での発言	20%															
	課題・レポート	30%															
	期末テスト	50%															
注意事項	以下の要件が必要です。 1. 算数(電卓を用い、計算します)																
備考	企業における財務担当者または公認会計士・税理士・証券アナリスト等を目指す生徒にとって有効な講義です。																
リンク																	
	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	公認会計士事務所顧問，金融機関の非常勤監査役
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
KC40M219	投資決定論特研(Investment Management Advanced Research)						対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2		経済学研究科 博士前期	前期	月5	氏名 鶴崎 清貴 E-mail 内線 7687						
授業の概要	本講義では、経営者の財務意思決定を中心的研究対象とするものの、それに関連した機関投資家や個人投資家の行動および資本市場のメカニズムに対しても考察を行いません。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	本講義では、投資意思決定方式のうち、最近よく用いられているリアル・オプションを理解できるようになります。											
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	イントロダクション											
2	バリエーション・ショック											
3	投資意思決定の柔軟性と事業価値											
4	リアル・オプションの基本											
5	リアル・オプションの基本2											
6	リアル・オプションの基本3											
7	リアル・オプション法の適用ガイドライン											
8	リアル・オプション法の適用ガイドライン2											
9	リアル・オプション法によるベンチャー事業評価											
10	リアル・オプション法によるベンチャー事業評価2											
11	リアル・オプション法の活用事例											
12	リアル・オプション法の活用事例2											
13	リアル・オプション法の活用事例3											
14	戦略的な投資意思決定へ向けて											
15	予備日											
ラ ア ク ニ テ ン イ ゲ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	日経新聞やWSJの記事に関し、ファイナンスの立場から議論を深める。 実際の会計数値を用いて、分析を行う。 実際の企業にファイナンスの理論を応用し分析する。				工 夫 そ の 他 の	ハンドアウトを毎回配布し、課題を解答する					
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	日経新聞やWSJを読み、課題を発見する。(25H)										
	事後 学修	課題を解答する。(20H)										
教科書	刈屋武昭監修・山本大輔,2002,『入門リアル・オプション』東洋経済新報社 鶴崎清貴(2022)『Rによるコーポレートファイナンス入門』 を予定しています。											
参考書												
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	講義中の発言	20%										
	課題の解答	30%										
	期末試験	50%										
注意事項												
備考	企業における財務担当者または公認会計士・税理士・証券アナリスト等を目指す生徒にとって有効な講義です。											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	会計事務所顧問, 金融会社非常勤監査役